

# あなたのための交通安全



## ずいそう

○ こんな奇妙な交通事故があった。  
四月×日、快晴、午後一時、国道〇号線、運転歴二年の若い女性ドライバー、対向車なし、自損事故、大腿骨折三カ月車輻大破……。事故報告書を拾い読みしていた私は驚ろいた。

事故原因はこういふことらしい。――坦々とした舗装道路の上を、車は五十キロぐらいで快適に走っていた。気をよくして、六十キロぐらいにアクセルを踏み込んだところが、こは如何に。アクセル板が、どうしたはずみか戻らない。メーターは六十一・六十五・七十とはね上る。八十キロぐらいに上ったところでもたまりかね、風圧にさらうドアを押し開けて外に飛び出し、そのまま気絶。しばらく無人で走った車は、菜の花ざかりの田んぼに、もんどり打って飛び込み、滅茶苦茶になった。――ということらしい。

ドライバーが、ゴマンと居るからご安心である。

○ 猫も杓子も運転免許を持つ時代である。三年半ほど前、うちのかみさんも、何に刺戟されてか、中年ばばあおのくせに自動車学校に通い、なんとか免許証を手に入ると、早速へそくりでポンコツ車を買って、ころがしはじめた。ところが不思議な現象が起こった。

## 自動車こわい



鈴木 昇

(県警察本部長)

ったのである。左を見て右を見て、もう一度左を見て、そして私の服のすそをしつかりつかんで、横断歩道を渡るようになった。

つべと思われたくないから、無理に都会人つらをして、他人を意識しないようなふりをして、しかも神経をすりへらして歩く。ばかばかしい話である。

な横断歩道を渡るときなど、信号がまだ青になり切らないうちに、サッサと歩き出すせがあった。「おいおい、そんな渡り方をすると今に車にはね飛ばされるゾ」私が見かねて後から注意すると、

「自動車にはブレーキがあるんでしょ、それに歩行者優先でしょ」と、まことに図う図うしいものである。

そのかみさんが、自分で車を動かすようになってから、歩行態度がガラリと変

○ それにしても、街の中には自動車のこわくない人種が多すぎる。

元来都会人というものは、雑踏の中をスイスイと歩く習性をもっている。魚の条件反射みたいなものなのだろう。だから、人にぶつかったり、もまれたり、まごついたりするものは田舎っぺということになる。

人ごみの中に出ることの苦が手の私にも、やむなく買物などに出る時は、田舎

ところが、往々にして車に対してまで都会人づらをしたがる人が多い。右顧左べん、キョロキョロして、暴走する車を警戒することが、あたかも都会人的センスのない人間であるかの如き錯覚もち、織りなすような車の流れの中を、車を意識しないような顔で、きわどくすり抜けて歩くのが都会人だと思っている。

こういう人種に限って、自分だけは交通事故にあわないという、いわれなき確信をもっているらしい。こういう人を、私は都会の田舎っぺと呼んでいる。

県内には五十万人もの免許所持者がいる。もちろん運転技術はピンからキリまである。法律を改正しない限り、このキリがどんどんふえて行くわけだ。私たちは走っている自動車の正体をもっと知らなければならぬ。

「自動車こわい」という単純素朴なことを現代人がもう一度見なおすことを私は提言したい。